

お日まち 品川 弘子

令和四年一月十一日、今日は我が家のお日まちの日。三神社に貼り出しがあり、宮司さまが我が家にみえ、祝詞をあげてくださる日。

うちの母がしていたように榊をあげ、ろうそくを灯し、「たてしお」（お米、酒、南天の葉を入れたコップ）、お洗米を供える。それとお餅（月形日形と小餅十二重）も供える。うるう年の年は十三重である。

今年是用意が悪くて、前日にもち米は水にかしていたが、まだ出来てない。主人曰く、「お餅は無くてもよい」。

でも、少し早起きして蒸してついた。ちよつと気がせく。それでもパツチリ出来た。齡をとると、思っているもチャチャと出来ない。何とか間に合った。

しばらくして宮司さまがみえた。御幣をあげ、家内安全、家の益々の繁栄をと祝詞をあげて、お祓いをしてくださった。

二人そろって今年も迎えられた。これが我が家の今年初めの行事です。



※【お日待ち】：正月行事で、神主が各家々を廻りその年の豊作と家内安全を祈願する。各家では米・餅・水・塩等の供え物を準備し（家によっては供え物及び並べ方に代々受け継がれてきた伝統がある）、神主が竹と紙を用いて御幣を作り、床の間にて神事を執り行う。（出典：山口市歴史文化資源サイト）